

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (2016年) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランドメゾン名駅東	階数	地上17階
建設地	名古屋市西區那古野二丁目2504-1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	192人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2023年6月15日
敷地面積	1,107 m ²	作成者	
建築面積	564 m ²	確認日	
延床面積	6,805 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

- ①参照値
- ②建築物の取組み
- ③上記+②以外のオンサイト手法
- ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 住宅供給のリーディングカンパニーとして住宅の長年にわたる良質さ(住まい心地、緑化、エコロジー、外観デザイン、経年美化、防犯性能、等々の多岐にわたる継続的な良質さ)を追求し、かつその実現を目指している。		
Q1 室内環境 界壁・昇床の遮音性能を高め、設計住宅性能評価において住居の外気性能は省エネ等級5を、一次エネルギー性能は一次エネ等級6を満たしている。	Q2 サービス性能 設計住宅性能評価において耐震等級2をみ込んでいる	Q3 室外環境(敷地内) ・積極的に緑化を行っている ・自然石積の外構を施している
LR1 エネルギー ・住宅設計性能評価の省エネ等級5を満たしている ・住宅設計性能評価の一次エネ等級6を満たしている ・太陽光発電を採用している ・エネファームを採用している ・LED照明を採用している	LR2 資源・マテリアル ・ノンフロン発泡材を採用している ・F☆☆☆☆建材を採用している ・混合廃棄物の延べ床面積あたりの排出量の目標を10000m ² 以上: 8 kg g/m ² 以下とし、それらの発生抑制に努める	LR3 敷地外環境 周辺道路に面して植栽帯を設け、町並み形成、都市の緑化に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)グランドメゾン名駅東

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.3



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。